



けいせん

2011.4.28



園庭にどっしりとすわり、春夏秋冬 様々な姿で木たちに変わりゆく季節を感じさせてくれる桜の木が 木は好きです。もうすぐ5月 新緑の季節となり 気もちのよい風にはかれて緑の葉が そよそよと揺れています。

今年は3月お寒い日が続き、例年よりも遅く満開となり、入園式も桜の花とともに新しい子どもたちを迎えることができました。幼稚園の木は満開になると、そのおころが見えたり、さうしりと花を口尖かせ、「にわかに実る」という言葉が似合うほどです。それは、冬にしっかりと根っこに肥料を与えているから。やっぱり根っこが大事。

子どもの成長もよく木にたとえられます。根っこが大事なのはよくいわれますが、子育ての根っことは何でしょう。これから英語が話せるようになるために「オクラレッスン」や、箱やマットが上手になるように「本探教室」へという早期教育も、根っこが大事という考え方は同じかもしれません。でも木たちがもっと大切にしたいのは、安心感という揺らぐことのない根っこ。自分は愛されているという安心感、居場所がある安心感、自分のありのままを受けとめてもらえる安心感... その安心感をもって自分らしく過ごす中で様々な経験ができた子どもは、きっとその子の「時」にその子らしい花(成長)を見せてくれることでしょう。

桜の木は一年に一度、花を口尖かせてくれますが、子どもの成長は「いつ」と決まっていません。それみんな同じではありません。先が見えないという不安になつてしまいます。だからご一歩者に、子どもたちの成長する力を信じ、待ち、祈っていきなさいと思います。まわりと比べることなく、その子のちあとした心の成長や体の成長に気付き、共に感動することができれば、それは子どもにとって大きな自信となり、次の成長へのステップとなるでしょう。

今年の年生主题是「信じるー見えないものに目を注ぐー」。  
ご一歩者に、見えないけれど大切なものを探し、見つけ、喜ぶ日々を過ごしていきませんか？